

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ 伝統工芸の振興	施策	①伝統的な技術・技法の継承と経営基盤の強化
		施策の小項目名	○伝統的な技術・技法の継承と高度化
主な取組	県工芸士の認定	対応する成果指標	従事者一人あたりの工芸品生産額
施策の方向	・ 沖縄県工芸士認定制度の活用や人材育成を通して、伝統的な技術・技法の継承と高度化に取り組みます。		

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
高度の技術・技法を保持し、かつ後継者の育成等に尽力している者を知事が「沖縄県工芸士」として認定することで、励みを与えるとともに、社会的評価を高め、もって工芸産業の振興を図る。	県	優れた技術・技法を保持する工芸産業従事者を「沖縄県工芸士」として認定		
		県工芸士認定者数(累計)		
		5人	5人(10人)	5人(15人)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課	【 098-866-2337 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	工芸人材育成事業			予算事業名	工芸人材育成事業	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
県単等	直接実施	3,735	3,916	主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	直接実施	6,152
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
産地組合、市町村から14名の推薦があり、認定委員会による審査の結果、12名を沖縄県工芸士として認定した。				産地組合、市町村へ推薦を募り、目安として5名程度の認定を見込んでいる。		

活動指標名	県工芸士認定者数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
実績値	R2年度	R3年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
		7人	6人	12人	5人	100.0%	順調

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

令和4年度は、工芸産地組合及び市町村から14名の推薦があり、審査の結果12名を工芸士として認定した。目標値の5名を上回ったことから、「順調」であると判断した。高度の伝統的技術及び技法を有する者を工芸士として認定することにより、伝統工芸品を製造する者に励みを与えるとともに社会的評価の向上につながった。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
市町村からの推薦者数の増を図るため、各市町村に対し、組合に所属しない工芸従事者及び産地組合が形成されていないその他工芸品分野の工芸従事者の把握を促す。	産地組合が形成されていないその他工芸品分野として、市町村から琉球焼2名、伊波メンサー2名、計4名の推薦があり、工芸士認定者数の増につながった。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	引き続き、組合に所属しない工芸従事者及び産地組合が形成されていないその他工芸品分野における人材を掘り起こしていく必要がある。	⑧ その他	市町村等を対象に毎年実施している「工芸産業振興施策説明会」において、候補者の調査、把握について協力を求めるとともに、市町村との連携強化を図り、推薦にふさわしい工芸従事者の掘り起こしを行う。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ 伝統工芸の振興	施策	①伝統的な技術・技法の継承と経営基盤の強化
		施策の小項目名	○伝統的な技術・技法の継承と高度化
主な取組	工芸技術者の育成	対応する成果指標	従事者一人あたりの工芸品生産額
施策の方向	・ 沖縄県工芸士認定制度の活用や人材育成を通して、伝統的な技術・技法の継承と高度化に取り組みます。		

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
工芸技術者の人材育成を図るため、おきなわ工芸の杜の設備・機器を活用し、基礎的・専門的な技術研修(織物、紅型、漆芸、木工)を行う。	県	工芸振興センターにおける基礎的・専門的な技術研修		
		工芸技術研修修了者数(累計)		
		8人	8人(16人)	8人(24人)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課 【 098-866-2337 】		関連URL	http://www.oki-kougeicenter.info

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	高度工芸技術者養成事業			予算事業名	高度工芸技術者養成事業	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託	19,776	22,537	県単等	委託	26,681
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
令和4年5月～令和5年3月までの11ヵ月間研修を実施し、織物2名、紅型3名、漆芸3名、木工4名の計12名が修了した。				令和5年4月からの1年を通して、織物3名、紅型2名、漆芸4名、木工4名の計13名に研修を実施する。		

活動指標名	工芸技術研修修了者数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
実績値	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
		20人	19人	12人	8人	100.0%	順調

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

工芸振興センター移転後、初めての研修であったが、目標値「8名」に対し、実績値は「12名」と目標を達成しており「順調」と判定した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
—	センター移転後初めての研修となるため、研修に影響が生じないよう研修スペースや機器・物品等の不足が発生した場合は、適宜速やかに対応した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	新施設での工芸研修実施にあたり、必要な環境 (研修スペース、機器類) が不足している部分がある。指導方法の検討が必要である。	① 執行体制の改善	研修に使用する機器類や研修工程等について再確認し、研修人数に応じた指導方法が可能となるよう体制を見直す。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ 伝統工芸の振興	施策	①伝統的な技術・技法の継承と経営基盤の強化
		施策の小項目名	○工芸事業者等の経営基盤の強化
主な取組	技術講習等の実施	対応する成果指標	従事者一人あたりの工芸品生産額
施策の方向	・ 原材料の安定確保、製造技術の向上、工程の見直し等により安定した製品供給体制の確立を図り、工芸事業者等の経営基盤の強化に取り組みます。		

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
本県の伝統的工芸品に使用される原材料の持続的供給を可能とするため、原材料の供給事業者の技術向上に資する体制の構築と原料の調達可能性の調査を行う。	県,市町村,工芸産地組合等	原材料の安定確保に向けた品質維持及び効率的な活用に関する技術講習等の実施		
		技術講習会の実施回数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課 【 098-866-2337 】	関連URL	-	

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 工芸原材料供給強化・調査事業				予算事業名 工芸原材料供給強化・調査事業		
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託	15,715	2,246	県単等	委託	8,585
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
<p>苧麻・琉球藍の品質安定化に向けた関係事業者間の意見交換や状況を共有するため、「苧麻栽培検討会」及び「藍建て手法検討会」を行った。</p>				<p>泥藍や苧麻糸の事業者間の意見交換、ネットワーク構築に向けた取り組みを行う。</p>		

活動指標名	技術講習会の実施回数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	0回	1回	2回	1回	100.0%	順調	<p>工芸原材料の品質安定化に向けた関係事業者間の意見や状況を共有するため、「苧麻栽培検討会」や染織物の染料として使われている琉球藍について「藍建て手法検討会」を開催した。</p>

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>苧麻及び琉球藍関係事業者に対し、工芸原材料の品質安定化に向けた関係事業者間の意見や状況を共有するため、「苧麻栽培検討会」や染織物の染料として使われている琉球藍について「藍建て手法検討会」の計2回開催したことから、順調と判断した。これにより、事業者間での情報交換による苧麻栽培・藍建て技術の向上につながった。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
<p>藍、苧麻についてシンポジウム等の意見交換の場の開催を検討する。</p>	<p>工芸原材料の品質安定化に向けた関係事業者間の意見や状況を共有するため、「苧麻栽培検討会」や染織物の染料として使われている琉球藍について「藍建て手法検討会」を計2回開催した。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	<p>藍、苧麻の栽培、製造方法等について手法の周知・検証を事業者と連携し引き続き行うとともに、今後は生産事業者間でのネットワークづくりによる実践的な意見交換の場が必要。</p>

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	<p>藍、苧麻について事業者間の意見交換、ネットワーク構築に向けた取り組みを引き続き行う。</p>

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ 伝統工芸の振興	施策	①伝統的な技術・技法の継承と経営基盤の強化
		施策の小項目名	○工芸事業者等の経営基盤の強化
主な取組	製造技術の向上	対応する成果指標	従事者一人あたりの工芸品生産額
施策の方向	・原材料の安定確保、製造技術の向上、工程の見直し等により安定した製品供給体制の確立を図り、工芸事業者等の経営基盤の強化に取り組みます。		

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
織物及び紅型の品質の維持・改善・向上を目的に、沖縄県伝統工芸産業振興条例の規定に基づき、検査対象織物について検査を実施する。	県	技術向上及び品質の維持を目的とした織物検査事業の実施		
		検査所配置数(累計)		
		10箇所	10箇所(20箇所)	10箇所(30箇所)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課 【 098-866-2337 】		関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/site/shoko/shoko/kogei/8104.html

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	織物検査事業			予算事業名	織物検査事業	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	直接実施	20,582	20,124	県単等	直接実施	21,625
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
県内10検査所に11名の検査員を配置し、全体で11,268点の染織物検査を実施した。				引き続き各検査所での染織物検査を実施する。		

活動指標名	検査所配置数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	10箇所	10箇所	10箇所	10箇所	100.0%	順調	県内10カ所 (那覇市2カ所、宮古島市、石垣市、沖縄市、大宜味村、読谷村、南風原町、久米島町、与那国町) に「沖縄県伝統工芸製品検査員」を11名配置し、染織物工芸品の検査を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

令和2年度の検査数は8,268点、令和3年度の検査数は9,002点であった。本県伝統工芸製品の品質の維持、ブランド力の向上に寄与している。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
検査員の推薦がスムーズに行われるよう、各産地組合に対して定期的に事業説明を行う。 検査員の募集を早めに実施し、検査員の任用を行うことで事業に遅れが出ないようにする。	コロナ禍のため、事業説明会は行わず資料を送付した。 12月に研修会を開催した。 染織従事者は減少傾向にあり、伝統工芸製品検査員の確保が困難になりつつある中、検査員を早めに確保し事業を実施できた。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	染織従事者は減少傾向にあり、伝統工芸製品検査員の確保が困難になりつつある中、検査員を早めに確保する必要がある。	② 連携の強化・改善	各産地組合に対して、事業説明を行い、事業の重要性及び必要性への理解を得た上で、検査員の推薦を依頼することで、検査員の確保及び確実な事業実施につなげる。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	伝統工芸の振興	施策	①伝統的な技術・技法の継承と経営基盤の強化
			施策の小項目名	○おきなわ工芸の杜を活用した伝統工芸の啓発普及と消費の拡大
主な取組	おきなわ工芸の杜の活用		対応する成果指標	従事者一人あたりの工芸品生産額
施策の方向	・おきなわ工芸の杜を活用した伝統工芸の体験学習や情報発信等により、消費者と作り手との交流を広げ、伝統工芸の啓発普及と消費の拡大を図ります。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
おきなわ工芸の杜を活用し、消費者と作り手との交流を広げ、伝統工芸の啓発普及と消費拡大を促進するため、貸し工房、共同工房、展示室、セミナー開催等、利活用の推進を図る。	県,指定管理者	おきなわ工芸の杜における貸し工房、共同工房、展示室、セミナー等の活用		
		施設の総利用者数(累計)		
		36,000人	36,000人(72,000人)	36,000人(108,000人)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課 【 098-866-2337 】		関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 おきなわ工芸の杜指定管理費				予算事業名 おきなわ工芸の杜指定管理費		
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託		81,369	県単等	委託	74,873
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
4月から供用開始し、伝統工芸品の展示やHP及びSNS等での情報発信、セミナーやワークショップの実施のほか、施設入居者の事業支援等を行った。				セミナーやワークショップ等にて工房運営支援や販路開拓支援を行う。また、施設内の展示管理を行い、沖縄空手会館との連携等についても進める。		

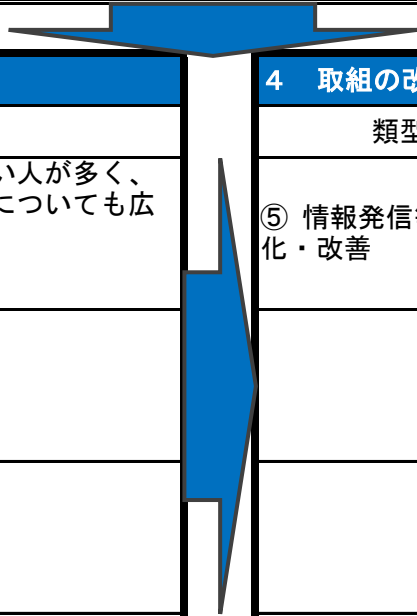
活動指標名	施設の総利用者数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	-人	-人	33,296人	36,000人	92.5%	順調	セミナー、ワークショップを4回、異業種等との交流会を2回開催した。 また、入居者への事業支援、相談対応やイベント情報の発信、マスコミ取材対応を行い、自主事業イベントについては2回開催した。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>新型コロナウイルス感染症の流行による行動制限等の影響もあったことから、「施設の総利用者数」の目標値「36,000人」に対し「33,296人」と目標値を達成できなかったが、達成割合が92.5%であることから概ね順調と判断した。 各種イベントの実施やセミナー、ワークショップを開催することで施設の認知度を高め、来館者の集客を図ることができた。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
-	<p>指定管理者の自主事業イベントの開催に合わせ、各貸し工房入居者がワークショップ実施等で連携する等、施設全体で取り組むことで集客につなげることができた。県出先機関の工芸振興センターにおいても、研修事業で連携する等、集客に向け取り組んできた。また、自主事業イベントの実施だけでなく、外部団体のイベント誘致を行うことで、施設の認知度向上や来館者の集客につながった。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	<p>近隣住民や工芸従事者でも当該施設を知らない人が多く、イベントの周知に加え、施設の取組や実施事業についても広報を強化する必要がある。</p>

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
⑤ 情報発信等の強化・改善	<p>SNSにおけるイベント情報の投稿をはじめとした情報発信に加え、近隣施設の空手会館や小学校等と連携を図り、広報を強化する。</p>



様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	伝統工芸の振興	施策	①伝統的な技術・技法の継承と経営基盤の強化
			施策の小項目名	○おきなわ工芸の杜を活用した伝統工芸の啓発普及と消費の拡大
主な取組	作り手と消費者との交流促進		対応する成果指標	従事者一人あたりの工芸品生産額
施策の方向	・おきなわ工芸の杜を活用した伝統工芸の体験学習や情報発信等により、消費者と作り手との交流を広げ、伝統工芸の啓発普及と消費の拡大を図ります。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
おきなわ工芸の杜を活用し、消費者と作り手との交流を広げ、伝統工芸の啓発普及と消費拡大を促進するため、イベントやワークショップを開催する。	県,指定管理者	おきなわ工芸の杜の貸し工房及び体験工房における消費者との交流		
		入居事業所数(累計)		
		10事業所	10事業所(20事業所)	10事業所(30事業所)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課 【 098-866-2337 】		関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	おきなわ工芸の杜指定管理費			予算事業名	おきなわ工芸の杜指定管理費	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託		81,369	県単等	委託	74,873
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
貸し工房及び体験工房の入居者募集と選定を行った。各工房・ワークショップ等での体験学習やイベント実施を通して、作り手と消費者の交流を促進した。				体験工房の入居者募集及び選定を行う。また、イベント事業の誘致や自主事業イベントの実施による交流を予定。		

活動指標名	入居事業所数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
実績値	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
		-事業所	-事業所	16事業所	10事業所	100.0%	順調

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

ホームページでの案内に加え、工芸従事者や関係事業者向けに入居者募集案内を行い、目標値以上の入居事業所数となったことから「順調」と判断した。おきなわ工芸の杜における消費者と作り手の交流促進及び工芸事業者に対する支援につながった。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
-	体験工房で空きとなっているガラスについては、事業者への案内や現場説明等を複数回実施した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	令和4年度の目標値は達成したものの、ガラスの体験工房のみ入居事業者が未定のため、早期に事業者を決定する必要がある。	⑥ 変化に対応した取組の改善	引き続きホームページ等で入居者募集案内を行うとともに、業界団体等へ積極的に周知を行う。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	伝統工芸の振興	施策	②伝統工芸を活用した感性に働きかける魅力的なものづくりの振興
			施策の小項目名	○新たな工芸品の開発及び二次加工製品製造の支援
主な取組	工芸研究事業		対応する成果指標	工芸品生産額
施策の方向	・産地や試験研究機関等との有機的な連携を図り、工芸の要素・資源や技術・技法を活用した新たな工芸品の開発及び二次加工製品の製造の支援に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
市場ニーズを踏まえた新たな商品開発等を図るため、工芸技術に関する試験研究を行い、工芸業界にその成果を還元する。	県	工芸技術の試験研究や製品開発の実施		
		工芸技術の試験研究・開発実施件数(累計)		
		2件	2件(4件)	2件(6件)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課 【 098-866-2337 】		関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	工芸研究費			予算事業名	工芸研究費	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	直接実施	886	878	県単等	直接実施	1,090
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
染織分野に関する試験業務を2テーマ実施し、工芸業界関係者へ周知した。				染織・木漆工に関する試験研究、開発研究業務を2テーマ（染織分野、木漆工分野等）実施し、工芸業界関係者へ周知する。		

活動指標名	工芸技術の試験研究・開発実施件数（累計）		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	4件	4件	2件	2件	100.0%	順調	染織分野に関する試験研究業務を2テーマ実施し、工芸業界関係者へ周知した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

試験研究、開発研究業務合わせて目標値「2テーマ」に対し、実績値は「2テーマ」と目標を達成しており「順調」と判定した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
工芸事業者の収益維持・拡大を図るべく、県内工芸産地および関連事業所との連携強化や情報共有、県外研究機関の研究やデータ等の情報分析をする。	これまで蓄積されていた紅型の染型をデータベース化することにより、検索が容易になり、円滑な技術移転が可能となった。 不用となった街路樹（沖縄県産木）を活用し、染料として色染め研究を行い、センター展で成果発表したところ、各産地組合等から問い合わせや試し染めの実施等の反応があった。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑤ 県民ニーズの変化 (外部環境の変化)	業界の課題の変化を踏まえた研究テーマの設定する。	⑥ 変化に対応した取組の改善	業界の課題を踏まえた即効性のある技術研究テーマ設定に向け検討する。
⑦ その他(改善余地の検証等)	技術情報、研究成果の広報を充実し、周知の強化を図る必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	産業まつりや工芸の杜でのイベントなどと連携し、センター展を開催するなど、周知を強化する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	伝統工芸の振興	施策	②伝統工芸を活用した感性に働きかける魅力的なものづくりの振興
			施策の小項目名	○新たな工芸品の開発及び二次加工製品製造の支援
主な取組	技術支援事業		対応する成果指標	工芸品生産額
施策の方向	・産地や試験研究機関等との有機的な連携を図り、工芸の要素・資源や技術・技法を活用した新たな工芸品の開発及び二次加工製品の製造の支援に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
伝統工芸技術、技法の継承と高度化(工芸産業の振興)を目的に工芸産地組合や工芸事業所(織物、紅型、漆芸、木工芸ほか)を対象とした講習会および技術指導の実施、技術相談を実施する。	県	産地等技術指導の実施			
		工芸技術指導事業所数(累計)			
		100事業所	100事業所(200事業所)	100事業所(300事業所)	
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課		【 098-866-2337 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	工芸技術指導費			予算事業名	工芸技術指導費	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	直接実施	1,216	1,682	県単等	直接実施	1,982
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
工芸産地組合および織物、紅型、漆芸、木工等の従事者向けの講習会開催、専門職員による現場指導、技術相談や情報提供した。				外部講師（県内外在住者）による講習会の実施や専門職員による技術指導する。		

活動指標名	工芸技術指導事業所数（累計）		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	150事業所	66事業所	183事業所	100事業所	100.0%	順調	工芸産地組合および織物・染物、漆芸、木工等の工芸縫製製品生産者、従事者向けの講習会開催、専門職員による現場指導、技術相談や情報提供した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

新型コロナウイルス感染症の流行により、本島のみで技術講習会を実施していたところ、数年ぶりに久米島と宮古島の産地組合を対象として開催し、多くの工芸技術者へ講習会等を通して技術指導ができた。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
大規模ではなく、講習会の分散開催等（複数回に分ける）を行う。各産地組合等の要望をもとに、講習会のテーマ、開催時期、講師等の選択を早期に行う。	本島の産地組合3カ所（琉球紺事業協同組合、琉球びんがた事業協同組合、那覇伝統織物事業協同組合）に2日にわたり、着物図案（絵羽模様）の講習会を開催し、多くの工芸事業者が参加できた。講習会のテーマを早期に決定することで、離島地域も含め3つの講習会（4回・7日）を開催した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	例年年度当初、各産地組合等に要望調査を発出し回答を求めている。多様な要望に対して、より詳細に聞き取り、適格な企画・立案が必要である。	③ 他地域等事例を参考とした改善	産業技術連携推進会議 (公設の試験研究機関等) の情報ネットワークを活かし、各産地組合等のニーズに沿った講習会の内容を検討する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	伝統工芸の振興	施策	②伝統工芸を活用した感性に働きかける魅力的なものづくりの振興
			施策の小項目名	○おきなわ工芸の杜における作り手と異業種の交流促進及び国内外への効果的な販路拡大等
主な取組	作り手と異業種の交流促進		対応する成果指標	工芸品生産額
施策の方向	<p>・おきなわ工芸の杜において、作り手と異業種の交流を促進し、新たな市場開拓や商品開発、ビジネスモデルの創出を推進するとともに、消費者の感性に働きかける感性型製品の開発やブランド力の向上、おきなわ工芸の杜やICTを活用した県民や観光客に対する情報発信の強化、国内外への効果的な販路拡大等に取り組めます。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
おきなわ工芸の杜において工芸と異業種との協働を目的とした交流を促すため、セミナーやワークショップを開催する。	県,指定管理者	おきなわ工芸の杜において工芸と異業種との協働を目的とした交流会の実施		
		異業種交流会の実施件数(累計)		
		1件	1件(2件)	1件(3件)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課 【 098-866-2337 】		関連URL	-

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 おきなわ工芸の杜指定管理費				予算事業名 おきなわ工芸の杜指定管理費		
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託		81,369	県単等	委託	74,873
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
入居者・県内事業者、異業種等との交流を目的としたセミナーおよびワークショップを開催した。				入居者、県内事業者、異業種等との交流を目的としたセミナー及びワークショップを2回開催する。		

活動指標名	異業種交流会の実施件数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	-件	-件	2件	1件	100.0%	順調	県内外の工芸従事者、支援者等のネットワークと入居者との交流を目的としたセミナー及びワークショップを2回開催した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

異業種交流を目的としたセミナー及びワークショップを2回開催したことから、順調と判断した。コラボレーションによる新商品開発や販路開拓等の機会創出につながった。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
-	貸し工房入居者に対し、定期的な面談、ヒアリング等を実施し、各入居者の事業の進捗状況及び施設に対するニーズ等を把握し、今後の事業活動において有益な交流となるよう実施した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	異業種交流については、入居者及び異業種事業者双方にニーズがあり、事業者としての経営力強化や販路拡大につながる効果的な交流の場となるよう引き続き取り組む必要がある。	⑥ 変化に対応した取組の改善	工芸品の更なる認知度向上、販路開拓及び入居事業者の収益向上を図る為に、交流する異業種の分野については、面談やアンケート等を実施してニーズを把握したうえでセミナー及びワークショップを開催する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	伝統工芸の振興	施策	②伝統工芸を活用した感性に働きかける魅力的なものづくりの振興
			施策の小項目名	○おきなわ工芸の杜における作り手と異業種の交流促進及び国内外への効果的な販路拡大等
主な取組	販路拡大		対応する成果指標	工芸品生産額
施策の方向	<p>・おきなわ工芸の杜において、作り手と異業種の交流を促進し、新たな市場開拓や商品開発、ビジネスモデルの創出を推進するとともに、消費者の感性に働きかける感性型製品の開発やブランド力の向上、おきなわ工芸の杜やICTを活用した県民や観光客に対する情報発信の強化、国内外への効果的な販路拡大等に取り組めます。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
<p>沖縄の工芸品を一堂に集め展示紹介するほか、即売や実演・体験、産地講演会を行い、工芸品を暮らしの中へ活用する提案を行い消費拡大につなげる。</p>	<p>県,市町村,工芸事業者等</p>	<p>県外等における沖縄工芸フェアの開催</p>			
		<p>沖縄工芸ふれあい広場開催件数(累計)</p>			
		1件	1件(2件)	1件(3件)	
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課		【 098-866-2337 】	関連URL	-

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	沖縄工芸ふれあい広場事業			予算事業名	沖縄工芸ふれあい広場事業	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
県単等	負担	3,000	3,000	主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	負担	3,000
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
東京銀座および沖縄県内にて沖縄の工芸品を一堂に集めた展示会を開催した。				沖縄の工芸品を一堂に集めた展示会を開催する。		

活動指標名	沖縄工芸ふれあい広場開催件数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
実績値	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
		1件	1件	2件	1件	100.0%	順調

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

新型コロナウイルス感染症の流行により、オンライン等にて実施していたが、3年ぶりに東京銀座にて県内工芸品を一堂に集めて展示会を開催することができた。また、国民文化祭及び第7回世界のウチナーンチュ大会の開催に合わせて、沖縄県内でも開催した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
開催時期・場所（東京・関西・沖縄等）については、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、早期に産地調整会議を開催し検討する。 インターネットを活用しつつ、一般来場者の誘客を強化するため、集客効果が見込める会場内での様々なイベントプログラムを組み込むなど、引き続き来場者誘客に向けてのアプローチを検討する。	産地調整会議を6月までに開催し、早期の開催時期・場所の検討を行った。 従来の広報に加え、SNSを活用し、新規来場者の集客に努めたほか、会場イベントについて、沖縄の歴史や各産地を紹介する講演会や三線演奏会等、集客効果が見込めるイベントプログラムを実施した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	ふれあい広場の催事内容等に関しては、工芸産地事業協同組合で構成される産地調整会議において決めることになるが、開催場所等の選定にあたっては多くの産地の意見が集約できるよう留意する必要がある。	① 執行体制の改善	沖縄工芸品の更なる認知度向上や販路開拓の為に、好評である現状の開催地を継続させつつ、新たな可能性 (開催会場や費用等) についても検討を重ねる。
⑦ その他 (改善余地の検証等)	毎年度、同時期・同場所で開催し、認知度も高まり多くの来場者がある。しかし、染織等の反物・帯等を求める客 (裕福層) が多くを占め、陶器・漆器・ガラス・染織小物等を購入する一般客の割合が少ない。	④ 創意工夫による取組の改善 (合理化・効率化)	インターネットやSNSを活用したPRに加え、来場者アンケートにより広報効果を検証し、既存の客層に加えた新規客層の集客へつなげるよう工夫する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	伝統工芸の振興	施策	②伝統工芸を活用した感性に働きかける魅力的なものづくりの振興
			施策の小項目名	○伝統工芸に触れる機会の提供
主な取組	展示会の開催		対応する成果指標	工芸品生産額
施策の方向	・工芸品の認知度向上のため、展示会の開催や文化施設等との連携など、県民をはじめ多くの方々へ伝統工芸に触れる機会を提供し、沖縄工芸の魅力や価値の向上に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
沖縄の優れた工芸品を公募し、表彰及び展示会を実施することで、工芸品を広く一般に紹介するとともに、生産者の意欲の高揚、技術、デザイン開発力、競争力の向上を図る。	県	作り手の技術向上及び県民への普及啓発			
		工芸公募展の開催件数(累計)			
		1件	1件(2件)	1件(3件)	
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課		【 098-866-2337 】	関連URL	-

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	沖縄県工芸公募展			予算事業名	沖縄県工芸公募展	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
県単等	委託		2,094	主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	委託	3,500
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
作り手の技術向上及び県民への普及啓発のため、第44回沖縄県工芸公募展を実施した。				作り手の技術向上及び県民への普及啓発のため、工芸公募展を実施する。		

活動指標名	工芸公募展の開催件数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	1件	1件	1件	1件	100.0%	順調	おきなわ工芸の杜にて沖縄県工芸公募展を開催し、作品の応募者数81人、応募点数103点、来場者数は510人となった。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

計画の通り、おきなわ工芸の杜にて第44回沖縄県工芸公募展を開催したことから順調と判断した。作品の応募総数103点のうち、16点が入賞及び入選した。復帰50周年特別展示として、人間国宝の作品展示も併せて実施し、来場者は510人であった。生産者の意欲の高揚、技術、デザイン開発や、競争力の向上に貢献している。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
おきなわ工芸の杜では初めての開催となるため、他施設での開催実績を踏まえながら、会場レイアウト等を業者と綿密に調整する。一般来場者の誘客を強化するため、展示会開催に関するチラシの配布など、来場者誘客に向けてのアプローチを検討する。	他施設での開催実績を踏まえながら、会場レイアウト等を業者と綿密な調整を行い、問題なく開催できた。一般来場者の誘客を強化するため、展示会開催に関するチラシを各博物館やコンビニ各店舗へ配布するとともに、広報・周知への協力依頼を行うなど、来場者誘客に向けてのアプローチを行った。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	工芸品に関する県民への普及啓発の観点から、引き続き実施する必要がある。委託の業務内容は主に展示会場の設営であり、作品受付をはじめとする事務作業は県で行っているが、業務の効率化を図る必要がある。	① 執行体制の改善	外部委託可能な事務作業については、民間事業者のノウハウを取り入れる等、業務効率化に向けた体制の見直しを行う。
⑦ その他(改善余地の検証等)	県民への普及啓発という観点から、一般来場者の増加に向けて取り組む必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	従来は実施していなかったSNS広告を行うことで、県民をはじめとした一般来場者の増加を図る。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	伝統工芸の振興	施策	②伝統工芸を活用した感性に働きかける魅力的なものづくりの振興
			施策の小項目名	○伝統工芸に触れる機会の提供
主な取組	webサイト等による情報発信		対応する成果指標	工芸品生産額
施策の方向	・工芸品の認知度向上のため、展示会の開催や文化施設等との連携など、県民をはじめ多くの方々へ伝統工芸に触れる機会を提供し、沖縄工芸の魅力や価値の向上に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
本県工芸産業振興を図るため、おきなわ工芸の杜webサイトにおいて工芸品やイベント情報等の発信を行う。	県,指定管理者	おきなわ工芸の杜webサイトにおける工芸品やイベント情報等の発信		
		ページ閲覧数(累計)		
		30,000件	30,000件(60,000件)	30,000件(90,000件)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課 【 098-866-2337 】		関連URL	-

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	おきなわ工芸の杜指定管理費			予算事業名	おきなわ工芸の杜指定管理費	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託		81,369	県単等	委託	74,873
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
「おきなわ工芸の杜公式サイト」をはじめ、工芸従事者向け、観光客向けの各種webサイトにおいて、工芸品やイベント情報等の発信をした。				企画展やイベント、施設設備等のお知らせ情報を分かりやすく掲載し、施設利用料や入居者募集に関する情報を状況に応じて随時更新する。		

活動指標名	ページ閲覧数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
実績値	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
		-件	-件	36,000件	30,000件	100.0%	順調

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

ホームページ閲覧数が、目標値を上回っていることから順調と判断した。「おきなわ工芸の杜公式サイト」や工芸従事者向けの「おきなわ伝統工芸サポーターズWEB」、観光客向けの「おきなわ工芸ナビ」等、それぞれの目的に沿った情報を効率よく迅速かつ正確に発信することで、来館者の誘客に寄与した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
-	「おきなわ工芸の杜公式サイト」を多言語化（英語、中国語、韓国語）し、広く情報を発信できるよう取り組んだ。また、サイト内に工芸従事者向け、観光客向けの各サイトリンクを掲載し、利用者が使いやすくなるよう工夫した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	施設の認知度向上や来館者の誘客につなげるため、ページ閲覧数の増に向けて、見やすく分かりやすいホームページ内容にする必要がある。



4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
⑤ 情報発信等の強化・改善	それぞれのWEBサイトの特性を検証し、必要としている人に情報が届くようホームページの内容を見直す。